



充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

## WEEKLY NEWS

---

### ◆複合材料:東レが炭素繊維強化プラスチックの可能性を広げるしなやかなタフポリマー技術を開発(9月28日)

東レは、内閣府が主導する革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)の研究開発プログラムの一環として開発した「しなやかなタフポリマー」を、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)に応用する技術を開発したことを発表した。

大学などによる分子設計技術や構造解析技術と、東レが保有する独自のナノアロイ技術を融合することによって、CFRPのポリマー材料へ環動ポリマー構造を導入する「しなやかなタフポリマー」作製技術確立したものであり、具体的には、CFRPのマトリックス樹脂中に環動ポリマーをナノスケールで均一に分散することに成功し、本来CFRPが持つ高い強度と剛性を維持しながら、従来に比べて約3倍の耐疲労特性を実現する。

この技術によりCFRPは、今後10年間で、航空機、自動車、スポーツ用品、医療ほか幅広い分野への応用展開と市場拡大が期待される。

今後は、本技術を適用したポリマー材料を、自動車用構造部材、衝撃吸収部材など、高い耐衝撃性と耐疲労特性が要求される構造用部材のベースポリマーとして展開して、新規用途の開発を進め、2020年代前半の実用化を目指すとしている。

### ◆ペースト:京セラが川崎工場に新工場棟を建設(9月27日)

京セラは、川崎工場において各種ペーストなど有機化学材料を製造するための新工場棟の建設を開始したと発表した。

同社は、半導体やデジタル機器、また自動車やエネルギーなど幅広い産業分野で使用される有機化学材料(各種ペースト、絶縁ワニスなど)を川崎工場において生産しており、さらなる事業拡大に向けた生産能力の向上と工場内の環境整備を目的に川崎工場内において新工場棟の建設を開始した。新工場棟の建設により、自動車関連市場で一層の需要拡大が見込まれる銀(Ag)ペースト

を中心に、将来的には生産能力を現在の約 50%拡大させる計画である。

新工場の投資総額は約 26 億円、操業開始は 2020 年 4 月を予定しており、初年度(2020 年 4 月～2021 年 3 月)の生産計画は約 32 億円としている。

◆エネルギー:三菱ガス化学が電力供給子会社を設立(9 月 26 日)

三菱ガス化学は、今後の電力に関する規制変更に対応し最適な電力調達・供給を行うため MGC エネルギー株式会社を設立したことを発表した。出資比率は三菱ガス化学 100%である。

同社グループがコスト競争力を維持していくためには、ユーティリティコストを適切に管理する必要があり、電力についても安価で安定した調達を行う必要があるとしている。その一助として同社は、2016 年 10 月に福島県相馬港において天然ガス火力発電事業に参画しており、2020 年春頃からの商業運転により発電される 118 万 kW(定格出力)の内、約 10 万 kW 相当の電力を引き取る予定としている。

◆医薬品原料:林原がプルランカプセルの市場拡大に向けロンザ社と長期パートナーシップ契約の締結を発表(9 月 26 日)

長瀬産業グループの林原は、医薬品業界、ヘルスケア業界およびライフサイエンス業界向けのリーディングサプライヤーであるロンザ社(本社:スイス)と長期パートナーシップ契約の締結を発表した。これにより、プルランカプセルの市場拡大に向けたロンザ社との戦略的協力関係を強化するとしている。

植物由来原料のニーズが拡大するなか、林原は今後プルラン製造設備の更新・増強を行い、製品の安定供給を継続する。さらに、ロンザ社とのパートナーシップを強化することにより、両社の成長を加速するとともに、健康でバランスの良いライフスタイルに対する消費者ニーズに応えるため、新製品の共同開発を行うとしている。

◆電池材料:宇部興産がリチウムイオン電池用セパレータ設備を増強(9 月 25 日)

宇部興産とマクセルホールディングスの合併会社である宇部マクセルは、車載用リチウムイオン電池の需要増大に対応するため、セパレータ原膜製造設備の増強を決定したと発表した。

宇部興産とマクセルは、急成長が続くセパレータ市場における競争力をより高め、合併事業を更に拡大・発展させることを目的として、2018 年 7 月に宇部興産のセパレータ事業の宇部マクセルへの移管及び塗布型セパレータの塗布製造を行う新会社設立を含む合併事業の再編につき基本合意している。

今回の増強計画は、2018年4月に宇部興産の堺工場に完工した新規設備に続くもので、2020年8月の完工を予定している。これにより宇部興産および宇部マクセルのセパレータ原膜製造能力は、合計3.2億㎡になる。

今後もセパレータの需要増大にタイムリーに対応し、能力増強を図ることで拡大基調にある車載用途でのプレゼンスをより強固なものとするべく、セパレータ原膜の製造能力を2021年以降には合計4.0億㎡へと段階的に引き上げることを検討していくとしている。

◆光学製品：ダイセルが台湾に光学製品の設計開発・販売拠点を設立

(9月25日)

ダイセルは、台湾で自社開発ウエハーレベルレンズを活用した光学製品の設計開発・販売を行う拠点として、ダイセル・マイクロ・オプティクス(DMO)を設立したと発表した。

同社は独自開発したウエハーレベルレンズが持つ耐熱性や小型、薄型、微細形状などの特徴をベースに、光学製品(レンズ)事業化を進めており、今後市場成長が見込まれるIoT・センシングの領域で事業拡大を目指している。

各種センシングデバイスやシステム開発に関する世界のエレクトロニクスメーカーのニーズが集中している台湾に拠点を置き、既存・潜在顧客により近い位置に、設計開発・販売を行うことで、先端ニーズの獲得や、顧客に密着した開発を行い、光学製品事業の拡大と加速を図っていくとしている。

◆塗料：関西ペイントが Jotun 社と防食塗料事業における基本契約を締結

(9月25日)

関西ペイントは、Jotun社(本社：ノルウェー)と防食塗料分野における基本契約を締結したことを発表した。

関西ペイントとJotun社は、2002年船舶塗料分野においてアライアンスを締結し、船舶塗料分野におけるグローバルシェア1位を獲得、現在まで緊密な関係を構築している。

今回、両社の信頼関係を発展させ、新たに防食塗料分野におけるシナジー探索を図ることに合意した。同社は、さらなる防食塗料事業の拡大を目指していくとしている。

◆価格改定

・カネガが塩化ビニル樹脂(汎用塩化ビニル樹脂の他、塩化ビニルペースト樹脂を含む特殊塩化ビニル樹脂のすべての品種)を10月21日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、12円/kg



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

